

環境文化都市とは

1996(平成 8)年 **飯田市第4次基本構想**(目指す都市像:**環境文化都市**)

「環境基本条例」を制定

「21'いいだ環境プラン」に基づき、地球温暖化防止策への取組

2007(平成19)年 **環境文化都市宣言**

私たちは、かけがえのない地球にある生態系の中で**自然と共生する地球市民の一員**としての原点に立ち返り、先人から受け継いだ美しい自然環境と多様で豊かな文化を活かしながら、

■ 「**持続可能性**」と「**循環**」を基本にして**自分たちのライフスタイルから社会の有り様に至るまでをあらためて見直す。**

■ 「環境に配慮」する日常の活動を「環境を優先」する段階へと発展させながら、**新たな価値観や文化の創造へと高めていく。**

■ **市民、事業者、行政など多様な主体の積極的な参加と行動とによって人も自然も輝く個性ある飯田市を築く。**

環境文化都市いいだ これまでの歩み

■ 太陽光発電の普及状況

- 補助金等交付ベース【H9～R1】
4,173件 約21mW
普及率10.44%

- 屋根貸し事業
飯田市を中心に9mW

■ 木質バイオマス機器の普及状況 (公共施設)

- 302台の機器が普及【H14～R1】



2021(令和3)年 環境文化都市「再構築」

2014(平成26)年
ポイ捨て条例制定
南アルプス ユネスコエコパーク登録

2013(平成25)年 地域環境権条例制定
地域主導の再エネ事業創出

2011(平成23)年 ラウンドアバウトの導入

2010(平成22)年
環境首都コンテスト「明日の環境首都賞」受賞

2009(平成21)年 レジ袋有料化
LED防犯灯の開発・設置

2009(平成21)年 環境モデル都市選定

2007(平成19)年 環境文化都市宣言

2004(平成16)年 平成のまほろば事業 市民共同発電開始

2002(平成14)年 公共施設へのペレットストーブ設置開始

1999(平成11)年 ごみ処理費用負担制度導入

1997(平成9)年 太陽光発電補助開始
地域ぐるみでISOへ挑戦しよう研究会(現：地域ぐるみ環境ISO研究会)発足

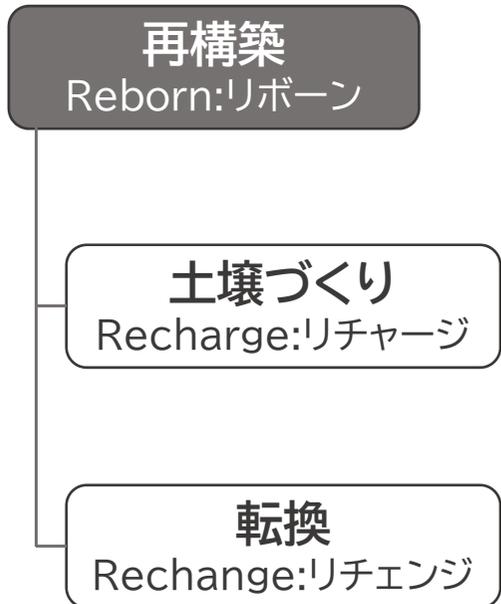
1996(平成8)年 目指す都市像 環境文化都市

環境基本条例制定 21'いいだ環境プラン策定

取組① 21'いいだ環境プラン第5次改訂版 2021年(R3)~2024年(R6)

■新時代に向けた再構築

- “2050年、飯田は日本一住みたいまちになる”に向けて「環境文化都市」の「再構築」(Reborn:リボーン)という新たなステージの期間
- 「環境の飯田市」として特徴づけてきた長所をより市民全体のものとする「土壌づくり」(Recharge:リチャージ)の期間
- 様々なリスクを成長へ変える「転換」(Rechange:リチェンジ)による新たな発想と行動が生まれる期間



- 
- ◇生活スタイルそのものが「地域価値」を生み出す
 - ◇人・モノ・財を呼び込む
 - ◇環境問題と社会、経済課題を同時解決し、社会全体へ貢献



21'いいだ環境プラン みんなで目指そう「6つのゴール」

■市民、事業者、地域、行政が意識を共有し、みずから考え、行動する

ゴール 1 健康で快適な生活環境を維持しよう

ゴール 2 次世代に引き継ぐ美しい田園都市をつくろう

ゴール 3 3Rに取り組み循環型社会を築こう

ゴール 4 豊かな自然を守り育てよう

ゴール 5 気候変動への対策に取り組もう

ゴール 6 環境問題を知り、学び、実践に移そう



21'いいだ環境プラン第5次改訂版 2021年（R3）～2024年（R6）

■市民、事業者、地域の皆さんに「取組事例」を提案

で、結局何すればいいの？
の声にお応えし、

こんなことしてみませんか（6つのゴールと35のターゲットをもとに）

お家ですぐするとき

- 「ごみ出しガイドブック」やごみ分別アプリ「さんあ〜る」で資源の分別をきちんとする。



家電製品を使うとき

- 冷蔵庫の中を整理し、物を詰め込み過ぎない

ほんの一例です



家を建てる時

- 新築やリフォームの際はZEHなど、省エネ性能の高い家にする



外出するとき

- 電車やバスなど公共交通機関を積極的に利用する



事業者のみなさんは

- SDGsやESGを意識した事業経営を行う



買い物や外食のとき

- 必要なものを必要な量だけ買ったり、注文する



コミュニティのなかで

- 環境に関する意見交換会に参加し、自分たちに何ができるか考える

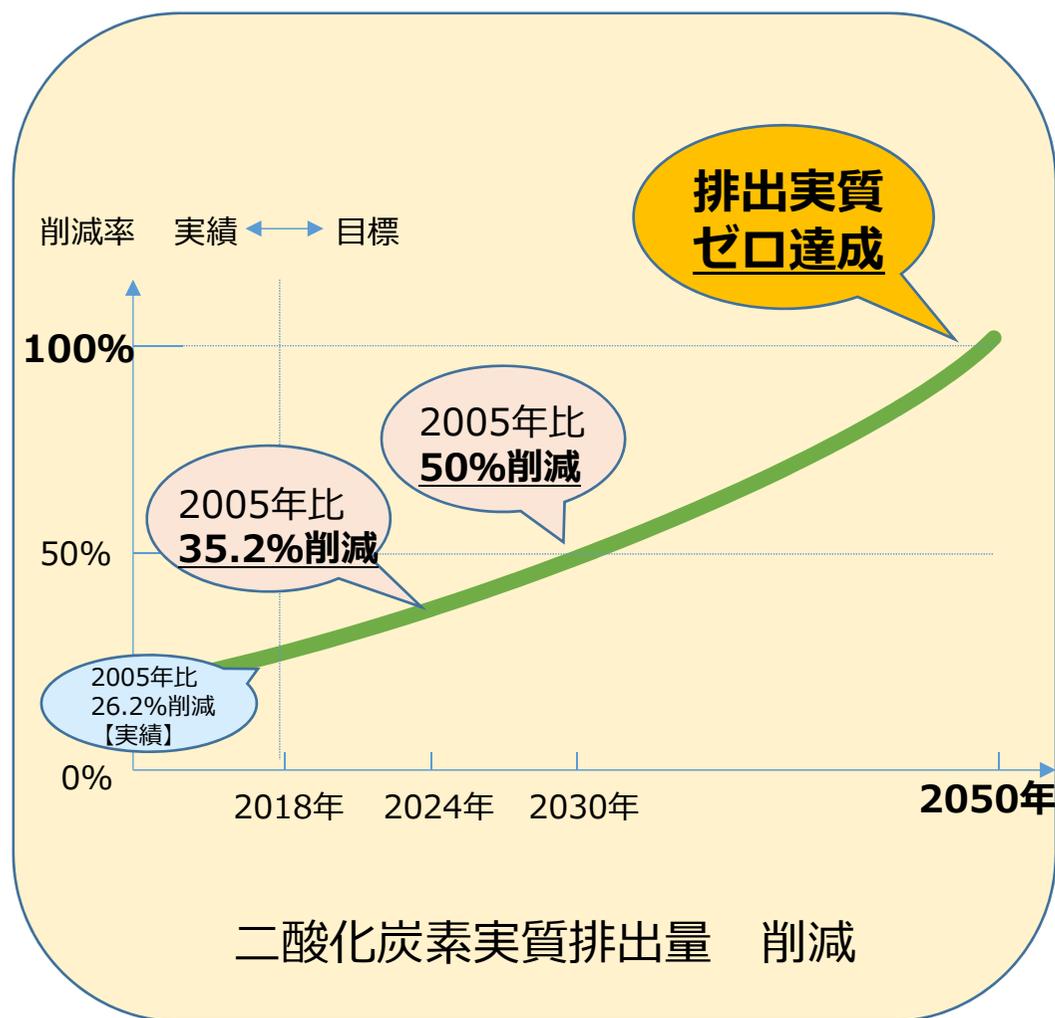


取組② 飯田市地球温暖化対策実行計画 2021年（R3）～2024年（R6）

21'いいだ環境プラン ゴール5 ターゲット1～5
＜気候変動の「緩和策」＞

■ゼロカーボンシティ飯田への挑戦

2050年の**二酸化炭素排出実質ゼロ**を目指し、新たな発想と協働により行動を起こす



「ゼロ」への取組

へらす

省エネルギーの加速的推進

かえる

持続可能な生活様式への転換

つくる

地域産再生可能エネルギーの創出

つかう

地域産再生可能エネルギーの活用

吸収する

森林整備による吸収源の確保

飯田市地球温暖化対策実行計画 ゼロカーボンへの取組

21'いいだ環境プラン ゴール5 ターゲット1~5
＜気候変動の「緩和策」＞

■アクションプラン

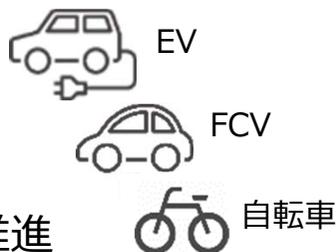
へらす

- 省エネ機器の普及啓発
- 生活に役立つ省エネ情報の発信
- 省エネセミナー実施・省エネ診断の普及
- 多様な主体による環境改善活動の普及



かえる

- エシカル消費の実践に関する普及啓発
- 次世代自動車への乗換え促進
- 公共交通機関利用の推進
- 自転車利用の推進
- ウォーキングの推進
- 飯田版Z E H制度の構築
- デマンドコントロールの推進
- テレワーク、リモート会議などの推進



吸収する

- 計画的な森林整備による吸収源の確保

つくる

- 太陽光発電と蓄電池の普及拡大
- 太陽熱利用の普及拡大
- 木質バイオマスエネルギー利用の普及拡大
- 公共施設へのペレットストーブの導入
- 小水力発電実施の支援
- 地域環境権条例を活用した案件組成の支援



つかう

- 「地域産」再生可能エネルギーの活用推進
～エネルギーの「域産域消」～
- リニア駅周辺の
環境共生住宅エリア構築
- E Vバスの実証実験
- E S G金融の地域導入に向けた研究
- 木質バイオマスエネルギーの流通体制の構築
- 将来的な交流を見据えた都市部との交流促進
- 再エネ比率の高い電力の利用



取組③ 飯田市気候変動適応計画

21'いいだ環境プラン ゴール5 ターゲット6
＜気候変動への「適応策」＞

■ 気候変動への主体的適応

気候変動による被害の回避、軽減のために

気候変動への「適応」に取り組もう

- 信州気候変動適応センターなどからの情報をわかりやすく提供し、個人、地域、事業者が「適応策」を講じることができる取組を促進
- 分野別計画に、気温上昇、降雨、降雪の変化等気候変動を捉えた適応について、その方向性を定める



現在、19の分野別計画へ、気候変動適応策を位置づけ

さらに、分野別計画の策定・改訂スケジュールに合わせ、**順次追加**

ゼロカーボンシティにむけて

～飯田市の決意～

私たちの日々の営みを見渡すと一足飛びに化石燃料使用をやめ「脱炭素のくらし」とはいかない現状にあることも事実です。

しかし、同時に人類の生存を確かなものにしていくには、早期に人為起源二酸化炭素を実質ゼロにするという選択肢しかないことを自覚し、行動を起こす以外にはないというタイムリミットも迫っています。

**“ゼロ”を達成するためには、
「行動を起こさない人は誰もいない、という状況を作り出すことが必要」**



主体性をもって、市議会、飯田商工会議所、飯田市が共同で

「ゼロカーボンシティ宣言」 を行い

実践の輪が広がる着実な取組へ